

学力向上フロンティア事業中間報告書

島根県

・学校の概要（平成 15 年 4 月現在）

島根県平田市立平田中学校

	1 年	2 年	3 年	特殊学級	合計
学級数	5	5	6	2	18
生徒数	188	195	232	5	620

教員数 校長 1、教頭 1、教員 32、養護教諭 1、合計 35

・実践研究の概要

1. 主題（テーマ）

『自ら学びとろうとする生徒の育成』

～確かな学力の向上をめざして～

キャッチコピー **分かった！できた！の喜びを**

2. 内容と方法

(1) 実施学年・教科

数学科（全学年）

- ・平成 13 年度（第 3 学年で少人数授業を実施）からの成果を継承しつつ実施。
- ・学力の個人差が出やすい教科でもあるので、全学年すべての授業を少人数授業か T T の形式で実施。

1 年～初めは T T（1 クラス 2 人で指導）の形式で実施。

5 月から 7 月までは 1 クラスを機械的に 2 つに分けて 2 つの教室で実施。

9 月からは 1 クラスを習熟度別（生徒の希望で）に 2 つに分け、2 つの教室で実施。

2 年～ 1 クラスを習熟度別（生徒の希望で）に 2 つに分け、2 つの教室で実施。

3 年～ 2 クラスを習熟度別（生徒の希望で）に 3 つに分け、3 つの教室で実施。

英語科（第 2 学年）

- ・意欲や学力の差が顕著になりやすい第 2 学年で実施。

1) 5 月下旬までは T T を中心にして、必要に応じて無作為に 2 つのグループに分けて授業を行なう。その間、生徒一人一人の学習状況を適切に把握し、教員間で授業の進め方について、協議、調整する。

2) 5 月下旬以降は、生徒の希望によって習熟度別に 2 つのグループに分け、「基礎発展」「基礎音読」コースとして、別々の教室で少人数授業を行なう。

技術家庭科（第 3 学年）

- ・発展的な内容を取り扱う 3 年生において、生徒の興味・関心や技能差に応じてきめ細かな指導を行なうために実施した。
- ・多様な学習形態（個別学習、ペア学習、グループ学習等）や指導方法を取り入れながら行った。

各教科・道徳・特別活動・総合的な学習

きめ細かな指導の実践

個人評価カードの活用、個人指導の徹底、個別的課題の自己選択・設定

グループ指導、ワークシートの作成と活用など

(2) 年次計画

平成 14 年度

テーマ『自ら学びとろうとする生徒の育成』

～確かな学力の向上をめざして～

仮説

生徒個々の実態に応じたきめ細かな指導を充実すれば、一人一人の学習意欲を一層喚起させ、確かな学力の向上が見られるであろう。

研究内容・方法

- ・ 少人数授業～英語科と数学科を中心に行なう。
- ・ きめ細かな指導～各教科、道徳、特別活動及び、総合的な学習において個に応じたきめ細かな指導を行なう。
- ・ 指導方法、指導体制、評価方法の工夫と改善を行なう。

平成 15 年度

テーマ『自ら学びとろうとする生徒の育成』
～ 確かな学力の向上をめざして～

仮 説

生徒個々の実態に応じたきめ細かな指導を充実すれば、一人一人の学習意欲を一層喚起させ、確かな学力の向上が見られるであろう。

研究内容・方法

- ・ 個に応じたきめ細かな指導の充実
各教科、道徳、特別活動及び総合的な学習
学校図書館の活用（情報センター機能、司書との連携）
- ・ 少人数授業の発展的試行（英、数）
- ・ 評価方法の工夫改善
- ・ 学習教材の開発ならびに活用研究
- ・ 他校ならびに保護者、地域への情報発信及びフロンティアスクール間の連携
- ・ データの蓄積・収集（検証の資料）

平成 16 年度

テーマ『自ら学びとろうとする生徒の育成』
～ 確かな学力の向上をめざして～

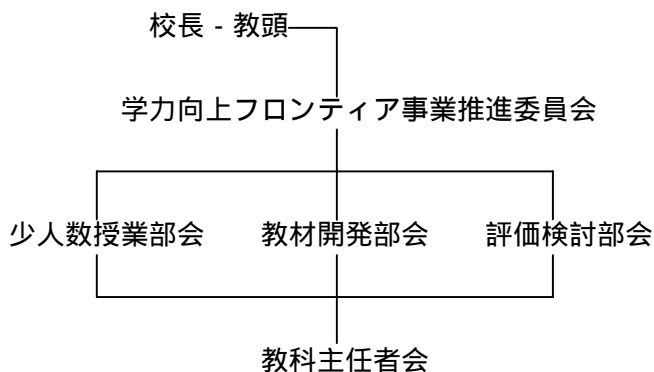
仮 説

生徒個々の実態に応じたきめ細かな指導を充実すれば、一人一人の学習意欲を一層喚起させ、確かな学力の向上が見られるであろう。

研究内容・方法

- ・ 個に応じたきめ細かな指導の充実
各教科、道徳、特別活動及び総合的な学習
学校図書館の活用（情報センター機能、司書との連携）
- ・ 少人数授業の発展的試行（英、数）
- ・ 評価を生かした確かな学力の定着
- ・ 開発教材の活用 個に応じた指導
- ・ 他校ならびに保護者、地域への情報発信及びフロンティアスクール間の連携
- ・ データの蓄積・収集（検証の資料）

(3) 研究推進体制



・平成 15 年度の成果及び課題

1. 研究の成果

数学科

人数が少ないので、生徒のつまづきが発見しやすく、それを指導に生かすことができた。

一人一人の生徒により多くの時間をかけることができ、基礎学力の定着に効果があった。

3年生は2クラスを3つのコースに分けたので、コース内の学力差が少なく、特に基本コースの生徒の学力が定着してきた。

生徒にも「質問しやすい、授業が分かりやすい、やる気が出る」という反応が増加した。

英語科

生徒全員の発表（音読活動や表現活動）を教師が聞くことができ、生徒の学習状況や理解の度合いを的確に把握できるようになった。そのために個々に応じた指導がしやすくなった。

生徒の活動の場が増え、意欲を持って取り組むようになってきている。

生徒は質問がしやすくなり理解を深めることができ、徐々に意欲的に活動できるようになった。

技術家庭科

TTによる指導形態を取り入れたことで個別指導が充実し、コンピュータの基礎的な操作技能が定着し、一人一人の生徒に作品完成の達成感を持たせることができた。

作品製作を通して身につけた知識や技能を今後の作品に生かそうとする意欲が高まった。

互いの作品を鑑賞する場面（相互評価）を取り入れることによって、自分の知らない技法や知識を積極的に知ろうとしたり、試行錯誤しながら課題を解決しようとする態度が多く見られるようになった。

TTによる教師の役割演技やグループ別指導を取り入れることによって、より具体的に学習課題が提示でき、学習場面に応じてきめ細かな指導ができるようになった。難しいテーマについても理解でき、課題解決のために思考を深めることができた。

地元講師による「魚のさばき方教室」を開催。（1年生技術家庭科の授業）

地元講師による「浴衣着付け教室」を開催。（3年生選択技術家庭科授業）

2. 今後の課題

数学科

進度や評価に関して共通理解が難しい。

教室の確保が難しいときがある。（教室移動や席移動のため、授業に集中できない生徒もいる）

3年生は2クラスを3つに分けたので少人数といっても人数が多くなる。

英語科

教師間の連携が十分にできなかつたり、指導方法や指導内容の違い、また進度の違いが大きくなる傾向にあるので、授業計画や共通理解の徹底が必要である。

評価のあり方や方法についてやや不十分であり、的確な評価がなされなかった面もあるので、評価計画をさらに検討していきたい。

教室の確保が難しく、教室を探したり移動することに時間がかかってしまうことがある。

少人数授業をさらに効果的にするための指導方法や教材の開発や改善が必要である。

人間関係が固定され、活動が停滞することもあるので、適宜、全体での活動も取り入れていきたい。

技術家庭科

T Tの指導に当たっては事前に授業内容を一緒になって検討し、共通理解のもとに、授業での役割分担や指導内容の一貫性をもっておかなければならない。特に評価については、評価規準に対する達成度を見極める具体的な尺度を持つことが必要である。

技術分野と家庭分野の担当教員でT Tを行うことで、互いの内容を取り入れた題材も今後検討していきたい。

・学力把握のための学校としての取組

定期テスト、習熟度テスト、毎時間の小テスト、個人評価カード、実技テスト、各提出物、単元毎のテスト、グループ発表、諸アンケート（生徒・保護者・教師）

・フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- ・平成15年5月18日 P T A総会に合わせて、数学、英語、技術家庭科の授業を少人数授業とT Tで公開した。
- ・平成15年11月5日 出雲教育事務所指導主事の訪問指導
少人数授業（英語科・数学科）の授業を公開し、市内はもとより近郊の学校から参加者があり、研修を深めた。
- ・平成16年2月10日 島根大学教育学部教授 築道明氏を招いて英語科（市内中学校にも案内）教員対象に「少人数、習熟度別指導の効果的取り組み」という演題で講演していただき研修を深める予定。
- ・ホームページ <http://fish.miracle.ne.jp/hirata-j/>

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

【新規校・継続校】	15年度からの新規校	14年度からの継続校		
【学校規模】	3学級以下	4～6学級		
	7～9学級	10～12学級		
	13～15学級	16学級以上		
【指導体制】	少人数授業	T・Tにより指導		
	その他			
【研究教科】	国語	社会	数学	理科
	外国語	音楽	美術	技術家庭（平成15年度より）
	保健体育科	その他		
【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】	有	無		